

令和3年度 上田市立塩田西小学校 自己評価シート

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)	
かしこく やさしく たくましく 一学校経営ビジョン 誰もが安心して 生き生きと学び 自主性をはぐむ学校	「かしこく」意欲的に学習に取り組む子ども 「やさしく」人やものを大切にする子ども 「たくましく」心と体をきたえる子ども	
	今年度の重点目標	
	1	安心して取り組める、わかる・楽しい授業づくり
	2	誰もが居心地のよい学級・学校づくり
3	自分を向上させる心と体づくり	

総合評価					
OUD化の視点を生かした授業改善への取り組みも6年目に入り、教員の授業力が向上してきている。塩田西スタイルも定着してきており、児童は見通しを持ち主体的に学習に取り組んでいる。また、その成果が全国学力検査のにもあらわれている。 ○朝の10分間読書は、本校の大切な時間として位置付けている。時間になると全校が静まりかえり集中して本に向かっている。その成果は児童の表現力に反映されており、各種作文コンクール等で優秀な成績を収めた。					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
UD化の視点を生かした授業改善により多くの子どもが安心して自分を出すことができるようになっている。	○				支援を複層的にすることで、すべての子どもの学びを成立させたい。
失敗した際の肯定的支援により、認め合い支え合う集団になっている。	○				ICT機器の活用により、誰もが活動に参画し、所属感が持てるようにしたい。
日々の授業で課題を解決する体験を積むことで前向きに取り組む姿勢ができてきている。		○			総合的学習の時間などで、その子の課題にじっくり取り組む場面を作りたい。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程・学習指導	特色ある教育活動の意識化	・ふるさと体験学習を通して、探究する楽しさや粘り強く追究する意識を持たせることができたか。
		学習に向かう基本姿勢	・全校共通の「塩田西スタイル」の意識し、1時間のゴールが見通せる授業を実践しているか。
		子ども主体の授業	・つける力と学習課題を明確にし、子どもの言葉で課題を据え、友だちと関わり粘り強く追究する場を設定し、子どもが主体となる授業を展開しているか。
		授業の3観点の実行	・学びの内容や振り返りや確認を大切に、できた、わかったという実感をもてる授業を展開しているか。
	豊かな自己表現力の育成	・考えを伝え合いながら学習を深める学び合いの場を設定しているか。	
	生徒指導・学級経営	挨拶の励行	・職員自ら挨拶をし、心の通う挨拶になるよう、児童との関係を深めることができたか。また、地域に心の通う挨拶を広めることができたか。
主体的に活動する子どもの育成		・目当てを明確にし、子どもが主体的に活動する児童会活動、学年学級の活動の場を設定したか。	
認め高め合う子どもの育成		・児童が「自己肯定感」を高揚させる場の設定や肯定的支援を行ったか。	
たくましい心の育成		・目標設定、行動、見直しのサイクルを回し、挑戦する気持ちを育てる場を設定しているか。	
学校運営	地域との連携	キャリア教育の推進	・地域講師の支援、地域の大学、高校との交流等により、ふるさと体験学習を充実、発展させているか。
		積極的な情報発信	・学校ホームページ、学校、学年、学級だより、他機関の報道等で情報の発信ができていくか。
		児童の安全確保	・安心メールを活用したり、安心の家、安全ボランティアと連携したりしながら、保護者や地域の方と協力して取り組んでいるか。
	研修	校内研究・研修の充実	・児童理解に立脚した個々に寄せた教材研究を積み、誰もが主体的、対話的に学び、成長の実感できる授業づくりに向けた研修に取り組んでいるか。

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
前年からの探求を継続させるなど粘り強く追究する意識が持れている。教材化が教員の負担。		○			ICT活用のスキルアップにより、自力で追求し表現していく力をつけていきたい。
課題設定の過程で、授業全体の見通しが持てるように工夫している。課題に使う言葉を吟味することで、振り返りまで意識が持続している。		○			課題として据える言葉を吟味することにより、ねらいに沿って授業が展開するようになりたい。
コロナ禍にあって、ペア学習、グループ学習は難しい状況だったが、タブレットの共同編集機能を使い関わりのある授業を工夫することができた。	○				共同編集機能により、発言に消極的な児童の意見を含め、多様な考えに触れることを通して、深い学びを実現したい。
授業の展開を統一したこと、具体的支援を意識したことで、追求・活動時間を確保しつつ、振り返る時間が持てるようになってきた。	○				課題を授業の最後まで、意識させることで、できた、わかったという実感を持たせたい。
タブレットの共同編集機能によって、発言に消極的な児童も表現する機会が増えた。		○			肯定的支援により、安心安全な教室の雰囲気作りにも努め、よい学び合いの場を作っていきたい。
児童同士、児童と職員との良好な関係づくりにより、校内外での挨拶がよくなるようになっている。	○				児童同士、児童と職員とが挨拶し合えるような関係にしていきたい。
「今何ができるか」を子どもたちにも考えさせることで、児童会活動や学年学級の活動が主体的になってきている。	○				キャリア教育とも関連づけながら、毎日の係活動や当番活動等の意義を感じながら、主体的に取り組ませたい。
肯定的支援を、褒めることでなく、そこに至るまでの過程を認めることと捉え直すことで、失敗を恐れず課題に向かう態度が育ってきている。	○				福祉的交流や異年齢交流により、自己有用感を高揚させたい。
毎時の授業で課題解決の過程を体験することで、抵抗のあることでも挑戦してみようという気持ちが育っている。		○			日々の授業を充実させていくことをベースに困難に向かう姿勢を育てたい。
高校生、大学生、地域の方との交流により、自分の将来に関心を持ち、卒業時には多くの児童がなりたい自分の姿が明確になっている。		○			ICT機器の活用により、空間的に離れた人との交流も可能になっている。様々な立場の方と交流し、将来像を明確にしたい。
報道機関に取材依頼をかけ、本校の活動が、広く知られるようになってきた。担任、校長が保護者の前に立つことが少なく不安に思う保護者もいた。		○			校長講話の動画配信などでより開かれた学校を目指していきたい。
通学路一斉点検においては、改修対象になった箇所が多かった。地域の方からあげていただいたもので、地域の方に見守られていることを実感した。	○				ここ2年、学校安全協議会が開けなかったが、公共機関の方、自治会長の皆さん等と顔を合わせることは大切と考える。
公開授業後のミニ研究会で出された内容は研究主任によって通信にまとめられ全教職員で共有した。教員はよいところを取り入れながら授業力を向上させている。	○				UD化の視点を生かした授業改善、MIMのアセスメントをもとにした指導は今後も続けていきたい。

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった